様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月　 ８ 日現在

機関番号：１７２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１２２４５

研究課題名（和文）精神障害者の地域生活定着にむけたアウトリーチチームによる地域ケア連携システム開発

研究課題名（英文）Development of community-based care collaboration system by multidisciplinary outreach team to community living support for people with mental illnesses

研究代表者
藤野　成美（FUJINO, NARUMI）

佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：７０２８９６０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：まず,地域活動支援センターにおいてアウトリーチ支援を行う上での課題について明らかにした．その結果【行政や医療機関の担当者との連携不足】【専門職による支援の質の差】【インフォーマルサポートの不足】【精神症状に対する対応の難しさ】【支援に対する公的資金援助の不足】【個別性を考慮した支援の難しさ】が抽出された．
次に，多職種チームにおける精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度を開発し，その信頼性と妥当性を検討した．探索的因子分析の結果，3因子20項目構造となった．本尺度における信頼性・妥当性は，統計学的に許容できる尺度であると示唆された．

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究により,地域ケア連携システムを開発することによって,多職種の役割が明確になり,情報共有および当事者目線での支援とシステム評価が可能となった.また開発した精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度により,多職種による支援の現状分析からの課題抽出,目標,方針,具体的支援計画の共有ができ,支援が可視化された．各専門職の支援が効率よく的確に提供することが可能となることで，顔の見えるネットワークづくりに貢献できると考える．

研究成果の概要（英文）：Firstly, to clarify the challenges in providing outreach support at community activity support centers. The following challenges in providing outreach support at community activity support centers were extracted: (1) insufficient cooperation with persons from the government or medical institutions; (2) difference in quality of support provided by different staff members; (3) insufficient informal support; (4) difficulty in coping with psychiatric symptoms; (5) insufficient public funding for support; and (6) difficulty of customized support that takes into account the patient's individuality.
Secondly, the objective of this study was to develop a mental health outreach practice self-evaluation scale and examine its reliability and validity. The results of the exploratory factor analysis indicated a 20 item, three factor structure. The reliability and validity of the mental health outreach practice self-evaluation scale suggest that it is a statistically acceptable scale.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神障がい者　アウトリーチ　多職種協働　尺度

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

わが国の精神障がい者に対する施策は,精神保健福祉施策の改革ビジョン（2004）が制定されて以来、入院医療中心から地域生活中心への基本理念のもと、退院支援が推進されてきた（厚労省, 2013）。しかし、現在も 31.3 万人(厚労省,2016)の精神科入院患者数を抱えている。このような状況において、精神科医療は,長期入院患者の高齢化と在院日数の短縮化に伴う入退院を繰り返す治療中断患者という二つの大きな課題を抱えている（伊藤, 2016）。この長期入院患者や治療中断者に対する支援として、専門職チームが必要に応じ訪問支援を行い、保健・医療・福祉サービスを包括的に提供する在宅生活継続を前提としたアウトリーチは不可欠である。アウトリーチは、リカバリーのプロセスを支えそれに寄り添うことを目標とした支援であり（伊藤, 2015）、精神障がい者の地域移行・脱施設化を進めるために有力な方策の世界標準と認められている（大島, 2011）。

地域精神医療におけるアウトリーチに関する研究において、社会資源や支援内容の役割分担・機能分化の必要性（吉田, 2013 ; 下平ら, 2013）、アウトカムや他組織との連携・協働の重要性（吉田, 2013 ; 萱間, 2012）が明らかにされ、多職種・多機関が協力して情報共有しながら支援することの重要性から、新たなアウトリーチ体制構築が求められている。しかし、多職種によるアウトリーチの体制構築は、各専門職が対応する責任領域が設定されていない（葛西, 2014）、包括的なアウトリーチ支援が求められているがニーズに対応した多様な支援が十分ではない(柳, 2014）等、多くの課題がある。その要因は、多職種の専門性の視点の違い、アセスメントやプランへの職種特有の視点の反映、多職種で機能分化と相互調整のバランスをとりながら、情報共有・ケアの決定及び遂行を主体的に調整することの困難さ（西尾, 2015）等が挙げられている。精神障がい者を地域で支えるためには、専門医療の高度化だけではなく、保健医療福祉分野の複合的な視点で、地域の多職種協働により、情報を共有し疾患をとりまく課題を整理し、解決策を議論し、互いの支援手法を可視化する取り組みが重要であると考える。

２．研究の目的

本研究の目的は、精神障がい者の地域移行・地域定着に向けた多職種協働によるアウトリーチの効率的な支援を目指して、対象の課題や多様なケア等を可視化し調整する地域ケア連携システムを開発することである。精神障がい者の地域移行・地域定着に向けた地域ケア連携システムを開発することにより、多職種協働によるアウトリーチチームの多岐にわたる支援の質向上とともに、関係機関のネットワークの充実が図れ、効率的なサービスと途切れない支援提供のための地域ケアの質向上が期待できる。そこで、まず地域活動支援センターにおいて、アウトリーチ支援を行う上での課題を明らかにする。次に、地域ケア連携システム開発に向けて、多職種協働によるアウトリーチ実践力を評価する精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度を考案し、信頼性・妥当性の検証を行う。それらの結果をもとに、精神障がい者の地域移行・地域定着に向けた地域ケア連携システムを考案する。

３．研究の方法

まず、地域活動支援センターにおいて精神障がい者に対するアウトリーチ支援を行なっている専門職者に対して、インタビュー調査を実施し質的分析を行った。次に、精神科アウトリーチを実践する全国の精神科病院や相談支援事業所等に勤務する医療・福祉の専門職 1661 名を対象に、質問紙調査を実施し、精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討を行った。

４．研究成果

１）地域活動支援センターにおいてアウトリーチ支援を行う上での課題は【行政や医療機関の担当者との連携不足】【専門職による支援の質の差】【インフォーマルサポートの不足】【精神症状に対する対応の難しさ】【支援に対する公的資金援助の不足】【個別性を考慮した支援の難しさ】が抽出された。個別性を考慮した多職種チームによる包括的支援を行うアウトリーチ支援の取り組みが重要であると考える。アウトリーチ支援のアウトカムは再入院の減少と地域定着であり,精神障害が地域で「その人らしい自立した生活」を継続することにより,各医療機関が病床削減に取り組む一手段となることが期待されている.今後は個別性を考慮した多職種チームによる包括的支援を行うアウトリーチの取り組みが重要であると考える.

２）精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度の開発と信頼性妥当性の検討を行った結果、【多職種チーム内における支援計画の遂行】【対象者の生活機能の把握】【対象者のリカバリーに向けた支援】の 3 因子 20 項目構造となった。本尺度は、検証的因子分析において許容できるモデル適合度であり、基準関連妥当性において有意な相関がみられた。Cronbach のα係数は許容範囲であり、内的整合性を確認した。よって、本尺度における信頼性・妥当性は、統計学的に許容できる尺度であることが示唆された。本尺度の開発によって、多職種チームにおける専門職が、精神障がい者アウトリーチの実践を自己評価することが可能となり、さらに実践を可視化することによって多職種チームにおける精神障がい者アウトリーチに携わる専門職が、自身の実践を改善する動機づけの指標となりうることは、国内外の既存尺度には見られないものであり、意

義があると考える。本尺度の活用は、精神障がい者アウトリーチに携わる専門職の人材育成に寄与し、実践の質向上につながることが期待される。これらの結果をもとに、精神障がい者の地域移行・地域定着に向けた地域ケア連携システムについて考案した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 藤野成美、重松由佳子	４．巻 17（1）
２．論文標題 精神障がい者アウトリーチの概念分析	５．発行年 2018年
３．雑誌名 インターナショナルNursing Care Research	６．最初と最後の頁 111-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鎌田ゆき、藤野成美、古野貴巨、藤本裕二	４．巻 29（1）
２．論文標題 多職種チームにおける精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度の開発	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本精神保健看護学会誌	６．最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Yuki Kamada, Narumi Fujino
２．発表標題 A basic Study to develop a self-evaluation scale of outreach activity implementation by multidisciplinary teams for persons with mental health concerns
３．学会等名 5th World Nursing and Nursing Care Congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Narumi Fujino
２．発表標題 Roles Expected of Public Health Nurse during Psychiatric Outreach in Japan
３．学会等名 6th Cross Cultural Health Care Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 N Fujino,Y Kamada
２．発表標題 Challengers in providing outreach support by community activity support centers in cooperation with institutions
３．学会等名 7th International Nursing Conference Transforming Healthcare（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Narumi Fujino
２．発表標題 Challenges in providing outreach support at community activity support centers
３．学会等名 Asian American Pacific Islander Nurses Association’s 14th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡村　仁 (OKAMURA HITOSHI) (40311419)	広島大学・医系科学研究科（保）・教授 (15401)	
研究分担者	重松　由佳子（有馬由佳子） (SHIGEMATSU YUKAKO) (90320390)	久留米大学・医学部・教授 (37104)	
研究分担者	長家　智子 (NAGAIE TOMOKO) (70207976)	佐賀大学・医学部・教授 (17201)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	鎌田　ゆき (KAMADA YUKI)		